

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1292200076
法人名	医療法人社団 聖山会
事業所名	グループホーム 風早の里
所在地	千葉県柏市塚崎997-3 (電 話) 04-7160-8175

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成21年 3月 6日	評価確定日	平成21年3月25日

【情報提供票より】(平成20年12月27日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成20年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 8.4 人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000	円	その他の経費(月額)	19,000	円	
敷 金	有(円)		○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○ 無		有りの場合 償却の有無	有 / 無		
食材料費	朝食	400	円	昼食	700	円
	夕食	600	円	おやつ	100	円
	または1日当たり					円

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名
要介護3	6 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 70 歳	最高 100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	市立柏病院、北柏ファミリークリニック
---------	--------------------

株式会社 日本ビジネスシステム

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昨年5月に開設された「グループホーム風早(かざはや)の里」は、広い駐車場を有した木造平屋作りの新しい建物である。地域に根ざした施設を目指し、地元住民に馴染み深い地域名「風早(かざはや)」から名づけられた。施設内は全面バリアフリーで日当たりが良く、2つのユニットの間に大きなウッドデッキを配した開放的な造りとなっている。入居者の作品や手作りの飾りつけ等で、明るく楽しい雰囲気が伝わってくる。医療法人が母体の施設であり、認知症に関する知識と経験を有する医師と、看護師・健康運動指導士等の専門職員が連携を図り、24時間体制で適切な健康管理を行っている。入居者も家族も安心して、楽しく穏やかに自由な生活が出来るように、職員は常に向上心を持って心のこもった柔軟なサービスの提供に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初回の外部評価受審の為、前回評価なし。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の作成においては管理者が行っている。職員は外部評価についての説明を受けると共に、評価項目や自己評価を閲覧し、評価の意義を理解している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	地域包括センター職員・民生委員・地区社協・家族・職員等を構成員として、4ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議では、施設の説明・活動状況の報告・意見交換等を行い、地域の理解促進とサービスの質の向上を図っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情相談窓口及び意見箱を設置していると共に、面会や電話の時に意見・要望等を確認している。挙がった意見・要望等に関しては、納得するまで説明を行い、問題の早期改善に努めている。また、必要に応じて職員間で話し合い、意見を参考にサービスの質の向上に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、入居者と共に回覧板を回して近隣住民との交流を図ると共に、散歩時には挨拶を交わす関係が築かれている。また、地域の社会福祉協議会主催のふれあいサロンや近隣の陶芸教室への参加、小学校の運動会見学等で、地域との交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域・医療・家族・スタッフ・介護・生活・自然がひとつとなって、入居者と共に幸せに生きて行こうという考えのもと、「やすらぎ・喜び・支えあう、目配り・気配り・心配り、気概・協調・素直」という事業所独自の理念を作り上げ、地域に根ざしたサービスの提供に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に理念が掲示されていると共に、職員会議にて理念の確認を行っている。職員自身が迷った時には理念に立ち返るよう指導を行っており、職員全員が常に理念を意識しながら、一人ひとりに合わせた柔軟な支援を行っている。また、理念をパンフレットに掲載すると共に、運営推進会議にて説明を行い、家族や地域への周知を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、入居者と共に回覧板を回して近隣住民との交流を図ると共に、散歩時には挨拶を交わす関係が築かれている。また、地域の社会福祉協議会主催のふれあいサロンや近隣の陶芸教室への参加、小学校の運動会見学等で、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成においては管理者が行っている。職員は外部評価についての説明を受けると共に、評価項目や自己評価を閲覧し、評価の意義を理解している。	○	管理者は、職員からより多くの意見を引き出すよう努めると共に、職員は積極的に意見を出す事により、自己評価の作成に全員が関わり、それぞれの気付きを大切にしながら、更なるサービスの質の向上につなげて頂く事を望みます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センター職員・民生委員・地区社協・家族・職員等を構成員として、4ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議では、施設の説明・活動状況の報告・意見交換等を行い、地域の理解促進とサービスの質の向上を図っている。		

【千葉県】グループホーム 風早の里

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	柏市グループホーム連絡会を通じて市と連携し、情報交換や講習会を行っている。また、困難事例や施設運営全般に関する質問・相談を随時行い、問題の早期解決を図っている。		
4.理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に、入居者の生活状況や金銭管理等の報告を行っている。施設での活動の写真を掲載した広報誌「かわら版」を毎月発行し、手紙と共に家族へ送付して、施設での生活や外出の様子を伝えている。また、必要に応じて随時電話連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口及び意見箱を設置していると共に、面会や電話の時に意見・要望等を確認している。挙げた意見・要望等に関しては、納得するまで説明を行い、問題の早期改善に努めている。また、必要に応じて職員間で話し合い、意見を参考にサービスの質の向上に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在の所、人材は安定しているが、入職があった場合には、広報誌にて紹介をしている。また、慣れた職員と一緒に業務を行い、入居者とコミュニケーションを取れるよう努めており、できるだけ早く馴染みの関係が築けるよう配慮している。定期的に職員の自己評価を行っていると共に、悩みや不安のある職員には随時面談を行ない、職員の思いの把握やストレスの軽減を図っており、働きやすい職場作りに努め、離職率の軽減につなげている。		
5.人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修においては、案内を掲示し、職員の積極的な参加を促している。また、地域のグループホーム連絡会にて、定期的に勉強会が開催されており、積極的に参加している。内部研修においては、年間の研修計画を立て、毎月開催しており、救命・衛生管理・介護技術等の研修が行なわれ、職員の質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会に加盟しており、会議にて情報・意見交換が行なわれ、相互のサービスの質の向上に努めている。また、連絡会にて勉強会・合同行事が行なわれ、職員や入居者同士の交流が図られている。困難事例があった場合は親交のある他の施設に相談する等、同業者とのネットワークが構築されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	随時見学を実施していると共に、希望に応じて体験入居も実施しており、施設の雰囲気や方針を理解してから入居を勧めている。入居後は、職員が付いて話をする機会を多く持ち、信頼関係を築くように努めている。また、他の入居者ともコミュニケーションが取れるようサポートし、出来るだけ早く施設に馴染み安心した生活が送れるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の希望や能力に応じて、家事等の生活活動を共同で行っている。職員は、入居者を人生の先輩として敬い、生活の知恵や助け合いの精神を学んでいると共に、入居者からの気遣いや労いの言葉に癒し・やりがいを得ており、互いに支え合う関係を築いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談にて本人や家族から生活状況や意向等を確認している。入居後は、日々の生活における観察や気づきを「伝達ノート・経過記録・特記事項の記録」にそれぞれ記録し、情報を詳細に共有できるよう努めている。また、会議にて職員が本人本位に意向等を検討し、その人らしい生活が送れるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人や家族の意向を踏まえた上で、介護・医療・リハビリの専門分野からの意見を取り入れて、計画作成担当者が作成している。計画作成後は、職員の意見や生活状況の観察を参考に、必要に応じて計画を変更し、現状に即した介護計画の作成に努めている。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回計画の見直しを行っていると共に、生活状況に変化の合った場合や必要であると判断された場合は、その都度見直しを行っている。見直しの際は、会議にて話し合いを行ない、介護・医療・リハビリの専門分野からの意見を取り入れて、計画作成担当者が作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の希望に応じて買い物や馴染みの場所等への外出を個別に行なっている。訪問理美容が実施され、身だしなみの支援を行なっている。また、地域の陶芸教室への参加・手芸展示会の鑑賞等、趣味活動の支援も行なっている。正看護師・健康運動指導士・介護福祉士が職員として配置され、専門分野を活かした支援が行なわれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外にも希望のかかりつけ医への受診支援が行われていると共に、定期的に内科・歯科の往診や訪問看護が実施され、適切な医療支援・健康管理が行なわれている。また、専門分野の職員を配置しており、看護師による健康管理、健康運動指導士によるリハビリ・栄養指導、歯科助手経験者による口腔ケア等、様々な支援が手厚く行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期における施設の方針を明文化し、家族の意向を確認して契約書を交わしている。重度化した場合や終末期においては、家族の意向を再確認すると共に、家族・医師・職員が連携を取りながら、施設として出来る最大限の支援を行っていく。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の書類は事務所の施錠できる書庫に保管し、個人情報の保護を図っている。職員へは接遇マナーの徹底を図り、個人のプライバシーを損ねないように配慮すると共に、同性介助や個別対応等、入居者の意向に沿った適切な対応を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課に取り決めは無く、本人のペースで自由な生活を支援している。希望を言い出せない入居者に対しては、個別に話を聞く等、希望を言いやすい環境作りをしていると共に、日々の観察から本人の希望を汲み取るよう努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望や能力におうじて、食事の準備や片付け等を共同で行っている。昼・夕食においては、配食サービスを利用し、栄養バランスを考慮した食事を提供している。朝食・おやつ献立作成や買い物においては、職員と入居者が共同で行っている。また、行事に合わせて誕生日のケーキ作りや餅つきを行なうと共に、外食会・テラスでお茶を飲む等、食の楽しみを提供している。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望に応じて時間や回数等柔軟に対応している。呼び出しブザーが設置されていると共に、十分な介助スペースが確保されており、安全面に配慮されている。また、脱衣所から直接行けるトイレが設置され、利便性に優れている。入浴拒否については、タイミングや声掛けを工夫し適切な対応を図っている。また、リネン業者を利用して、タオルや足拭きマット等の衛生管理が徹底されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の希望や能力に応じて、家事等の生活活動を共同で行っている。毎日、飾りつけの作成や歌等のレクリエーションを実施していると共に、読書・ピアノ・陶芸教室等の様々な趣味活動の支援を行なっている。誕生日会等の施設行事には家族も参加し、入居者・家族・職員が共に楽しみを共有している。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望や天候に応じて散歩やウッドデッキでの日光浴等を楽しんでいると共に、食材や日用品の買い物を実践しており、日常的な外出支援を行なっている。また、地域のふれあいサロンへの参加や柏市グループホーム連絡会主催の合同行事へ参加し、外部との交流を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠を行わず、入居者の自由な生活を支援している。事務所からは施設全体に目が行き届く造りとなっていると共に、センサーチャイムの活用により、入居者の把握・安全確保に努めている。入居者が外に出た場合は、さりげない見守り・声掛けに努め、入居者の自由を束縛しないよう配慮している。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時・緊急時等のマニュアルを整備していると共に、職員全員が救命救急講習を受講し、緊急時に備えている。消防署の協力のもと、第1回目の消防避難訓練が実施された。今後は、年2回の消防訓練を定例化すると共に、運営推進会議を通じて、災害における地域の協力を呼びかけて行く予定である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好や能力に合わせた適切な食事提供がなされていると共に、食事や水分の摂取量を記録している。摂取量が少ない場合には、好みのおかずを提供し、食が進むよう工夫したり、間食等により必要な栄養の確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全面バリアフリーで、玄関・廊下・トイレ等ゆったりとしたスペースが確保されている。両ユニットの間に事務所があり、職員の目が行き届く造りとなっている。施設内は、入居者の作品や行事写真が掲示されていると共に、季節の飾り付けで明るく楽しい雰囲気作りがなされている。リビングにはソファや畳が設置され、入居者が思い思いにくつろげるよう配慮されている。また、両ユニットの間には大きなウッドデッキが設置され、レクリエーション・日光浴・お茶飲み等が楽しめる。加湿器の利用や定期的なリネン交換等により、感染症の防止・衛生管理の徹底を図っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により馴染みの物を自由に持ち込む事が可能となっており、入居者が安心して居心地良く過ごせるように配慮されている。希望があれば畳を敷く事も可能となっている。全居室にエアコンと換気扇が設置され、職員により適切な空調管理がなされていると共に、ナースコールが設置され、安全面への配慮がなされている。また、リネン業者を利用してあり、定期的にリネン交換を行い、衛生管理を徹底している。		